

竜王西小学校 学校関係者評価書

令和7年2月17日（月）

（竜王西小学校）学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和7年2月14日（金）午後3時30分～

会場：竜王西小学校学習室

参加者：（学校関係者評価委員）

学校運営協議会委員：植松章子 功刀妙子

PTA会長：庄田有希 PTA副会長：河野安哉宇 中込佐智代

（学校側）校長：立澤正二 教頭：小林恵子 教務主任：丹下博喜

I 学校側から提案された内容

○教職員自己評価アンケートと考察（保護者アンケート・児童アンケートも含む）

○課題改善に向けた今後の取組

II 協議された主な内容

○学校生活を通して児童につけていきたい力について

「先生に聞く」「人前で意見を言う」がやはり苦手なのかと感じる。受け身で指示待ちのように思われる。ICTを使い慣れ、発表したりプレゼンしたりする力がついてきている。新しい学びのスタイルや従来の学び、協働的な学び等様々な形態を取り入れていきたい。

○学校・保護者・児童とのつながりについて

- ・先生達が子供達に関してコミュニケーションを取ってくれ、密に関わっていてくれると感じている。とても話しやすく学校の雰囲気はとても良いと感じている。
- ・担任だけでなく、支援員や事務職員・栄養職員なども関わり合いながら学校全体で児童とのコミュニケーションが図れるような学校運営を今後も続けていく。

○挨拶について

児童会が挨拶ハイタッチなどの企画をし、自主的に毎朝玄関に立って挨拶をしてくれている。場に応じた挨拶を身につけていけるよう、校内・学校外でその都度指導を重ねていきたい。

○家庭学習について

- ・家庭学習強化週間の回数が減ったが、回数としては適当で子供に関わる貴重な機会になっている。
- ・取組内容についてはこれからも家庭と連携し、声をかけていく必要がある。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- 自己評価からは、職員が学校教育目標を意識し具現化に向けて、教育活動に熱心に一生懸命に取り組んでいることが伺える。昨年度に比べ自身の取組に対してやや厳しめの評価をしていると捉えられる項目もあったが、学習意欲の喚起、ICT機器の利活用の広がりが見られ、職員が連携を図りながら協働体制で学校教育に力を注いでいることが分かる。
- 児童アンケートは、自分の意見を言うことや発表することにやや自信のなさが感じられるが、肯定的な回答が多く、全般的には学校生活を楽しく有意義に過ごせているようである。
- 保護者アンケートは、昨年度と比較すると項目によって多少の増減はあるが、肯定的な回答が多く、子供が楽しく学校生活を送れていると感じていることや学校の教育活動に理解を示し、生活習慣にも関心をもって家庭での指導をしている様子が伺える。

Ⅱ 特徴

◆学校教育目標に関して・学校経営について

自己評価は4項目全てにおいてAB評価が100%で、中でも「あなたの学校は、学年の教育計画が教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」が75%と高くなっている。

◆学校運営について

「学校日よりホームページなどから教育活動の内容を知ることができる」の+評価が昨年度より約3%、「学校は保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。」の+評価は12%向上していることから、学校運営に関して保護者が好意的に捉えていると見ることができる。

◆学習指導について

- ・「ICTを効果的に活用した授業を行っている。」の自己評価はA評価が約4%向上している。
- ・「学校の授業は楽しいですか。」「先生はよく勉強を教えてくださいますか。」の項目は昨年度より+評価が向上している。
- ・保護者アンケート「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」の+評価が昨年度と同値の90%、「お子さんは授業の内容が分かっていると思う。」は、約2%向上して82.4%の+評価である。

◆生徒指導について

- ・「児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。」「児童生徒の規範意識を育む指導に取り組んでいる。」の自己評価は、A評価が7割を超えており、教職員の生徒指導への意識の高さが伺える。
- ・児童アンケートでは「困ったことがあったら相談できる先生がいますか。」のA評価が80.2%で昨年度より3%向上しており、児童とのコミュニケーションが図られていると見ることができる。

◆地域との連携について

「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」のプラス評価が昨年度より4.2%向上しており、各地域の行事がコロナ禍前に戻ってきていることが伺える。

◆学校の特色に関して

- ・挨拶に関しては、教職員・保護者とも高い意識を持って指導をしていることが分かる。
- ・児童に関して「誰とでも挨拶をしていますか。」は3.5%減って86.7%であったことから学校内では挨拶ができるが、学校外ではなかなかできないと感じている児童がいると推測される。

◆創甲斐教育について

- ・「コミュニケーション力を生かして学び合えるよう指導に努めている。」の+評価は100%である。
- ・児童アンケート「友だちとコミュニケーションをとりながら活動することは楽しいですか。」の+評価は96%になっており、コミュニケーション力が養われてきていると推測される。
- ・「児童が積極的に読書活動に取り組むよう指導に努めていますか。」の+評価は100%である。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- 学校からの情報発信は、内容によって配信と紙面の使い分けをしていく。
- 担任だけでなく、支援員や事務職員・栄養職員なども関わり合いながら学校全体で児童とのコミュニケーションを図っていく。
- 表現する力・伝える力を育てていくためのICT活用と従来の学び・協働的な学びとの両立を図る。
- 家庭学習の取組内容を充実させる。
- 児童の理解度を把握すると共に児童の気持ちをくみ取ること努める。
- 一人一人自分に合わせて選択できるような宿題の内容を検討していく。
- 大人が挨拶をしている姿を見せることの大切さを啓蒙する。
- キャリアパスポートの有効的な活用に取り組む。

※特記事項

なし

